

令和5年度第2回運営推進会議 グループホーム暖らん

日時：令和5年7月20日（木曜） 14時30分～15時10分

出席者 ご利用者家族、民生児童委員、出雲市高齢者あんしん支援センター、出雲市高齢者福祉課、

理事長、暖らん管理者 の6名（高齢者福祉課はzoomでの出席）

本会議には今年2月からご利用の方の家族が1名出席された。

1. 利用状況（7月20日現在）を下記の通り報告した。

現入居者 9名（定員9名）

① 年齢別

平均 91.0 歳

	男	女
80歳代	0	2
90歳代	1	6

② 要介護度別

平均要介護度 2.7

	男	女
要介護1	0	1
要介護2	1	2
要介護3	0	4
要介護4	0	0
要介護5	0	1

利用待機者 8名

2. 6月からの行事、活動などを「暖らん便り」no.23を見ながら報告する。

委員からの質問：活動の中に保育園を訪問しての活動があるが、保育園にはどのようにして行っているのか、徒歩か、車か。

回答：車で行っている。以前は歩いての方が多かったが、次第に歩くことが難しい方が多くなった。

理事長から：保育園での子供達との交流はご利用者の方は、とても喜ばれる。本日も子供達がきいち倶楽部を訪問しての交流があった。普段表情の硬いご利用者も笑顔になる。今後も続けてゆきたい。

3. 7月8日（土曜）大雨による避難準備の経緯を報告する。

☐ 朝8時、暖らんの前を流れる塩冶赤川の水位が道路まで30センチくらいに達する。出雲市から警戒レベル4の避難指示が発表される。塩冶コミュニティセンターが避難所を開設。

☐ 9時、塩冶コミュニティセンターへの避難に備え、事業継続計画（BCP）に則り準備を始める。

- ・理事長、職員に状況を通知。
- ・きいち倶楽部から車椅子用の車を1台借りる（前日から）。車4台で避難するよう準備する。
- ・自然災害時の「備蓄品」（飲用水、生活用水、食料品、日用品、衛生用品の各ケース）を車に積

- む準備をする。「避難時持ち出し品」(個人薬、タブレット、車椅子など)リストを確認する。
- 10 時には塩冶赤川の水位が下がる。避難は天候と川の状況をみながら待つことにする。
 - 午後も断続的に雨が降り続くが、塩冶赤川の水位は朝ほど上がることがない。16 時、当日の避難は行わないこととする。

管理者：今回の上記の避難の準備は初めての経験であった。結果として非難しなかったことが適切だったか、ご意見をいただきたい。

委員：あの大雨で浸水被害も出たが、実際の避難を行った事業所は出雲市内にあるのか。

委員：平田地区の事業所でグループホームと小規模多機能をもった法人が避難所に避難した例が 1 例あったと承知している。

委員：そうした情報は共有することが良いと思う。

管理者：自然災害の B C P の準備段階の発動を経験した。今後も B C P の内容、体制を整備してゆきたい。

出雲市委員：8 月 9 日には B C P 作成講座も開くので参考にしてほしい。

4. 研修

6 月 23 日 (金) 職員会 「看取り、エンドオブライフ・ケアについて」

6 月 28 日～29 日 「認知症介護実践者研修」 1 名 (朱鷺会館 研修継続中)

7 月 17 日 (月) 「ユマニチュード基礎研修」 1 名 (オンライン 6 時間)

*ユマニチュード® 認知症ケア、看護、地域ケアなどにおける「優しさを伝える技術」。フランスで開発され、日本では 10 年前から実践されている。認知症ケアの質の向上の一方法として、外部評価における今年度の達成課題にしている。

5. 事故、ヒヤリハット

- ・事故報告はない。
- ・ヒヤリハットは 6 月 5 件、7 月 4 件あった。
 - ・立位保持または歩行時に倒れそうになり、職員が支えた (2 件)
 - ・歩行できない利用者が、ベッドに座っていた、または足を下ろしていた (3 件)
 - ・薬が与薬袋に 1 錠余分に入っていた。
 - ・帰宅の訴えのある利用者を訪室すると利用者の窓の鍵が開いていた。
- その他
 - ・職員会で共有、対応方法を話し合う

6. その他

- ・7 月 8 日、今年度の新型コロナワクチン接種をご利用者全員が受けた。
- ・7 月初め、県内の新型コロナウイルス感染確認の拡大を受けて感染対策を再確認するよう申し送りや口頭で職員に周知する。3 月から行っている対面での面会は一定条件のもとで継続中。

以上。